

第1回「極軌道プラットフォーム搭載用資源探査観測システム、

次世代合成開口レーダ等の研究開発事業」

研究開発プロジェクト 終了時評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成29年1月19日（木）9：30～11：30

2. 場 所 経済産業省本館1階東共用会議室

3. 出席者

（検討会委員）[敬称略・五十音順、※は座長]

※建石 隆太郎 国立大学法人千葉大学 名誉教授

中山 裕則 学校法人日本大学 文理学部地球システム学科 教授

三宅 弘晃 学校法人五島育英会 東京都市大学

工学部機械システム工学科 准教授

（研究開発実施者）

一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構

（事務局）

製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室

室長 轟田 将範

係長 村山 裕紀

（評価推進課室）

産業技術環境局研究開発課技術評課室

技術評価専門職員 江間 祥三

4. 配布資料

資料1 「極軌道プラットフォーム搭載用資源探査観測システム、次世代合成開口レーダ等の研究開発事業」研究開発プロジェクト 終了時評価検討会 委員名簿

資料2 研究開発評価に係る委員会等の公開について

資料3 経済産業省における研究開発評価について

資料4 評価方法（案）

資料5 「極軌道プラットフォーム搭載用資源探査観測システム、

次世代合成開口レーダ等の研究開発事業」研究開発プロジェクトの概要

資料6 評価用資料

資料7 技術評価結果報告書の構成（案）

資料8 評価コメント票

資料9 質問票

参考資料1 経済産業省技術評価指針

参考資料2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料3 平成27年度中間評価報告書（概要版）

5. 議事概要

（1）評価検討会の公開について

事務局から、資料2により、評価検討会の公開について説明を行い、本評価検討会について、会議、配付資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

（2）評価の方法等について

事務局から、資料3、4、7、8により、評価の方法等について説明を行い、了承された。

（3）研究開発プロジェクトの概要について

事務局及び実施者から、資料5により、プロジェクトの概要について説明がなされた。主な質疑等は以下のとおり。

・アウトカムの設定について、データ利用も含めた評価を行うのかとの質問があり、運用成果も含めて評価を行う旨回答があった。

・不具合に対処するための技術、ノウハウについてどのように継承していくのかとの質問があり、今後もメーカーにおいて運用を継続していくとともに、学会等を通じて一般に公表していく旨回答があった。

・石油資源探査を始めとする利用手法の公表について質問があり、現在成果報告書は公開されていないものの、受託事業者が運営する「宇宙ビジネスコート」なども活用しつつ公表していく旨回答があった。

（4）今後の予定について

事務局から、資料8について説明を行い、評価コメント票の提出期限を平成28年2月1日とすることを確認した。また、第2回評価検討会は書面審議にて行うこととし、報告書案を作成次第、委員に連絡をすることとした。